

# JANPU FDミニマムシリーズ

## D. 大学を取り巻く環境変化と看護学教育の課題-1

社会ニーズをとらえた行政施策により、大学を取り巻く環境は大きく変化しています。人々の期待に応える看護学教育を展開していくため、これらの変化を知り、教育の目指すところと具体的な授業の方法を考えてみましょう。



一般社団法人 日本看護系大学協議会  
2023年度高等教育行対策委員会 作成

# 大学を取り巻く環境は大きく変化しています



ICTの発展や国際情勢を反映し、国の人材育成像が新たに提示されました。  
ここでは、まず高等教育のグランドデザインの提言に至るまでの経緯を説明します。

**科学技術基本計画（2016年～2020年）**

閣議決定 2016年1月22日



**Society 5.0 提唱**

（第4次産業革命）

**2040年に向けた高等教育のグランドデザイン**

中央教育審議会 2018年11月26日

**科学技術・イノベーション基本計画（2021年～2025年）**

閣議決定 2021年3月26日

**我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）**

教育未来創造会議 2022年5月10日

第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿として **Society 5.0**が初めて提唱されました。(閣議決定 2016年1月22日)

※内閣府 [https://www8.cao.go.jp/cstp/society5\\_0/](https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)

## Society (ソサエティ) 5.0とは

- サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会 (Society)。
- 狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すもの。
- IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服する。
- 人工知能 (AI) などにより、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服される。

2016年の閣議決定による科学技術基本計画を受け、  
2018年に、その年に生まれたこどもたちが大学を卒業する時の社会の姿を想定して、  
“2040年に向けた高等教育のグランドデザイン”が答申されました。(中央教育審議会)



## 2040年に想定される社会の姿

- SDGs（持続可能な開発のための目標）
- Society 5.0（第4次産業革命）
- グローバル化の進展
- 人口減少
  - 18歳人口は、2040年には88万人に減少し、現在の7割程度の規模となる推計
- 人生100年時代
  - 超高齢社会

※[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm)

“2040年に向けた高等教育のグランドデザイン”では、  
高等教育が育成を目指すべき人材像と、そのために必要な転換内容が示されました。

※[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2018/12/17/1411360\\_7\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2018/12/17/1411360_7_1.pdf)



## 2040年の展望と高等教育が目指すべき姿

### ■ 予測不可能な時代を生きる人材像

- 普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付けていく
- 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、**論理的思考力を持って社会を改善していく資質**を有する人材

### ■ 学修者本位の教育への転換

- 何を学び身に付けることができたか + 個人の学修成果の可視化
- 学修者が生涯学び続けられるための多様で柔軟な仕組みと流動性



## 教育研究体制：多様性と柔軟性の確保

- 多様な学生
  - リカレント教育、留学生交流の推進、高等教育の国際展開
- 多様な教員
  - 教員が不断に多様な教育研究活動を行うための仕組みや環境整備
- 多様で柔軟な教育プログラム
  - 学位プログラムを中心とした大学制度、複数の大学等の人的・物的資源の共有、ICTを活用した教育の促進
- 多様性を受け止める柔軟なガバナンス等
- 大学の多様な「強み」の強化

以下の問いかけについて、  
これまでこのように取り組んできた、これからこうしたらいいのでは等、  
自由に仲間と討議してみてください。

- 🌀 国の方針は社会と国民のニーズの変化を反映しています。
- 🌀 Society 5.0において、看護学教育に求められているものは何でしょうか？
- 🌀 あなたの大学の学生のレディネス、教員の教育観にも照らし、卒業時達成目標や授業・学修支援の仕組みは、今後、どうなっていけばよいでしょうか？また、どのような課題があるのでしょうか？